

2019年度 独創的研究助成費 実績報告書

2020年 3月31 日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	樂木 章子
研究課題	養子縁組家庭における夫婦の家事・育児分担に関する予備的研究					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樂木 章子	岡山県立大学・准教授	人間・環境学	研究全般および総括	
	分担者	中野 菜穂子	岡山県立大学・准教授	児童福祉学	資料収集（副）	
研究実績の概要	<p>本研究では、養子縁組家庭における夫婦の家事・育児分担に関する予備的なデータを収集した。具体的には、ある養子斡旋団体（NPO 法人）における養親リーダーとして養子を迎える夫婦を支援し、また、自ら3人の養子を育てている夫婦を対象に、子どもの養育を振り返り、家事・育児の分担と子育てについての語りを収集した。なお、家事・育児の種類については、一般家庭における資料を参照とし、①夫と妻が定期的に担当している家事・育児、②夫と妻が不定期に担当している家事・育児について聞き取り、加えて、③養子縁組特有の育児課題である「真実告知（養親と養子に血縁関係がないこと、および、産みの親の存在を子どもに伝えること）」の方法、および、夫婦の役割等についても調査した。</p>					

※ 次ページに続く

研究実績
の概要

①と②については、対象とした養子縁組家庭においては、一般家庭（夫と専業主婦家庭）の家事・育児分担の実態よりも、養母の家事・育児分担が極めて高く、ほとんどすべての家事・育児を担っていることが明らかになった。ただし、夫は食事づくりを初めとする家事スキルが高く、かつ、子どものミルク対応、食事対応、おむつ・トイレ対応も可能であり、妻の求めに応じて、速やかに家事・育児を担っていることがわかった。加えて、子どもが何らかのトラブルを抱えた時の学校対応や地域への対応は、夫が中心になって、夫婦で揃って行われてきていることも明らかになった。

③の子どもへの真実告知については、どのような伝え方をするか、何を伝えていくかについて、夫婦で継続的な話し合いができており、それに基づき、妻が実践し、それを報告し、夫がフォローしていくという形式が取られていた。この「真実告知」という難題を夫婦で共有することで、密なコミュニケーションの効果が生じていたと思われる。

その他、養子縁組家庭同志の交流（キャンプや旅行など）も密に行われており、その際には、夫（達）が中心に、食事づくりや子どもの世話をし、妻（達）の日々のストレスの軽減に努めている様子もうかがわれた。

以上から、対象とした養子縁組家庭においては、次の5点が示唆された。

- (1) 家事・育児は妻がほとんどを担っており、一般家庭（専業主婦家庭）と比べても、夫婦の性役割分業が明確であった。
- (2) 夫は、家事・育児能力が高く、妻の要望に応じる形で分担していた。
- (3) 学校や地域の中で子どもの問題が生じた際には、夫が中心になって対応していた。
- (4) 真実告知は妻が中心となり実践していたが、夫は常にそれをフォローし、夫婦間のコミュニケーションが充実していた。
- (5) 夫は、他の家族との交流を積極的に企画・実施し、夫（達）を中心に、妻（達）のストレス軽減に努めていた。

今後はさらなる事例を収集し、養子縁組家庭の夫婦における性役割分業と夫婦のコミュニケーションの関係について検討することが必要となると思われる。